

「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和元年12月6日（金）及び7日（土）に高坂小学校体育館で高坂小学校の保護者及び地域の方を対象とした「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合についての考え方に関すること

（1）小規模校のよさ・学校規模についての考え方

- ・小さい学校の方が子どものことをよく見てくれる。
- ・資料に小規模校のよさが書いてあるが、もっとあるのではないかと。
- ・小規模校の何が課題なのか疑問である。
- ・クラス替えができる方が望ましいという根拠のデータはあるのか。
- ・小規模校の問題についての回答の意味がよく分からなかった。全国的な動向は本当に正しいのか。
- ・市内の小学校で恐喝事件があったが、高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）ではあり得ない。マンモス校になったら、きめ細やかな対応はしてもらえない。
- ・いじめの問題は大規模校の問題である。問題のないところに労力を使う意味が分からない。財政的な問題か。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策

定され、同様の考え方が望ましいとされています。

- ・小規模校には、学校行事で活動の場を与えやすい、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすいといったよさがありますが、その一方で、人間関係の固定化が生じやすい、体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる、また、指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなるといった課題などがあります。
- ・3つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができるうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- ・教育委員会では、小規模校の課題を解決しつつ、高坂小のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくことが必要と考えています。
- ・統合する際には、高坂小の子どもや保護者・地域等を理解した教育活動が引き継がれていくことができるよう教職員を配置します。

（2）統合のメリット

- ・統合すれば友達が増えるのは良い面である。
- ・人口の減少もふまえて、統合は必要。それぞれの家庭の事情はあるが、まずは子どもたち第一で考えてほしい。
- ・クラス替えは必要だと思う。これから通う子どもの意見を聞いてほしい。

教育委員会の考え方

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」によると、「心配はなかった」という子どもがいる一方、「学校が遠くなること」、「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができるのか」などの心配があったと回答した子どももあり、こうした子どもたちの気持ちを十分に踏まえることが重要と考えています。
- ・教育委員会では、子どものことを第一に考えながら、保護者や地域の皆様の声を丁寧にお聞きし、また学識経験者等による調査・審議の結果も踏まえながら、統合に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えています。
- ・新しい学校づくりにおいて、子どもの意見を取り入れることは大切であると考えています。校名・校章・校歌や通学時の安全確保など統合決定後の新しい学校づくりの段階（ステップ5）では、保護者・地域・学校と協議し、子どもたちが関わっていくことについて検討したいと考えています。

(3) 教員の負担等

- ・小規模校だと先生の負担が重くなるという説明が分かりにくかった。
- ・教員数が少ないと業務量が増えるのか、教員の意見も聞きたい。
- ・小規模のデメリットばかり挙げられているが、実際に学校生活において、保護者が頼りにしているのは教育委員会ではなく現場の先生なので、小規模校の先生の意見も聞いてみたい。
- ・統合すれば全体として教員は減ることになるが、減った教員の行き先はどうなるか。

教育委員会の考え方

- ・望ましい学校規模となった場合には、小規模校であった頃と比較すると教職員数が増えるため、例えば校務の事務分担はより多くの教職員で分担できるようになります。また、学年が複数学級となれば、学年ごとに準備が必要となる遠足や校外学習などの取り組みを担当同士で分担して計画・立案したり、実施したりすることができるようになります。
- ・運動会や学芸会・作品展などの学校全体の行事においては、より人数の多くなった教職員がそれぞれの役割を分担することで、小規模校の頃よりも負担軽減を図ることができるようになります。
- ・小規模校では、事故・ケガなど緊急時に対応することのできる教職員が少ない状況ですが、そうしたことも解消されます。
- ・統合したなごや小の例では、平成26年度に当時単学級であった旧江西小学校（以下「旧江西小」といいます。）、旧那古野小学校（以下「旧那古野小」といいます。）の教員は11人でしたが、この2校と旧幅下小学校（以下「旧幅下小」といいます。）が統合して開校したなごや小では、平成29年度の教員数が21人となりました。多くの教職員で協力分担しながら、教育活動・学校運営を行うことができるようになりました。
- ・小規模校の教職員からは、「子どもたちの人間関係の固定化や、教員一人あたりの校務の負担などを日々感じている」、「単学級の場合、運動会や様々な行事の時にクラスの中で常に半分に分かれていけないというのは、子どもたちにとってクラスで団結することがないので少しかわいそう」といった意見があがっています。
- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、学校現場の負担軽減に努めたいと考えています。

2 高坂小学校に関すること

- ・今の高坂小は他学年交流もあり子どもも気に入っているのも、統合と聞くと仕方ない気持ちと複雑な気持ちがある。
- ・高坂小は先生一人ひとりが児童の名前や兄弟関係も分かってくれており、本質を見抜いて接してくれている。
- ・高坂小は最初にできた学校であり、整備もきちんとできている。子どもによる消防団も表彰される

ほど優秀である。

- ・卒業生として母校がなくなるのは寂しい。

教育委員会の考え方

- ・高坂小は、昭和 44 年に開校してから保護者や地域の皆様に支えられた教育活動が進められており、「ペア学年活動」や「高坂水田」、「ふれあいあそび」といった取り組みが行われています。また、平成 29 年度には特に優良な少年消防クラブの総務大臣賞を受賞するなどの実績も納めています。
- ・統合については、これら高坂小のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境となるよう新しい学校づくりを進めてまいります。

3 統合（案）に関すること

（1）統合相手校・統合場所

- ・以前の計画では、相手校は相生小学校（以下「相生小」といいます。）だったのが、なぜ、しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）になったのか。地図で見れば、高坂小と相生小、その後にしまだ小ではないか。
- ・統合は仕方ないとしても、未来のビジョンが弱い。相生小や山根小学校も含めて考えてはどうか。
- ・現時点ではどう考えても高坂小の場所がベストである。
- ・しまだ小は死角が多く、日当たりも悪いと聞いた。高坂小の方が立地も日当たりも良い。
- ・しまだ小は高低差もあり民家も隣接している。使える面積がどれほどあるか。
- ・しまだ小の液状化の可能性についてはどう考えているか。
- ・しまだ小は上空を高压電線が走っている。また、万が一、学校に隣接する鉄塔に子どもがよじ登ったりしたら危険ではないか。
- ・しまだ小の保護者・地域の方にとっても、校名、校歌、校章が変わり母校がなくなるという気持ちになる。
- ・なごや小では統合場所はどのように決めたのか。

教育委員会の考え方

- ・平成 22 年に策定した前の計画では、高坂小の統合相手校を小規模校であった相生小としていましたが、この計画は終了し、平成 31 年に「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を新たに策定しました。相生小は現在も小規模校ですが、学区の幼児人口が多く、今後、小規模校は解消する見込みです。
- ・平成 31 年に策定した新たな計画では、統合相手校を含む具体的なプランを学校ごとに作成するとしており、統合の組み合わせについては、「隣接する学校の統合を基本とする」、「原則として、同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の組み合わせとする」等としています。

- ・高坂小については、小規模校の状態が解消される見通しが無い中で、しまだ小の場所で、しまだ小と統合するとの統合（案）としましたが、その理由は、①出身の幼稚園・保育園の状況、②学校敷地の広さ、③通学距離が概ね2km以内ということから、決定したものです。
- ・なお、相生小を含む久方中学校ブロックにある三つの小学校を統合すると想定した場合、望ましい学校規模（12～24学級）を上回る児童数となる見込みです。
- ・統合を契機とした学校施設の整備については、しまだ小の敷地にある高低差、液状化の可能性や高圧電線の状況なども踏まえながら、その内容を検討します。
- ・なごや小では、三つの小学校の中で敷地面積の比較などにより、旧幅下小が統合場所として決定されました。

（2）今後の児童数

- ・新しく家が建てられている現状から、高坂学区の子どもが増加した場合はどうするのか。
- ・今後の人数の増減が分からないというのは、無責任だと思う。高坂荘のリニューアルについて、どうなるのか。
- ・市営高坂荘を整理して空き部屋を数えて何棟か建て替えられたり、土地が売られたりすれば子どもは増える。

教育委員会の考え方

- ・高坂小は小規模化の顕著な学校の一つであり、例えば各学年の児童数がすべて今の2倍になったとしても小規模校は解消されません。令和7年度まで見ても、クラス替えができる規模になると見込まれないため、教育委員会としては統合は必要であると考えています。
- ・高坂荘の建て替えについては、現在、具体的な計画はないと聞いています。
- ・こうした状況を踏まえると、高坂小が望ましい学校規模を確保するためには、統合に向けた取り組みを進めていく必要があると考えています。

（3）子どもへのケア

- ・子どもの不安にどうケアしてくれるか。
- ・高坂小としまだ小の児童数のアンバランスから、高坂小の子どもたちが委縮することはないか。どのように対応するか。
- ・しまだ小には通級指導教室がある。発達に課題を抱える子は、環境の変化に敏感である。しまだ第2保育園が売却されたときに、業者がたくさん入ってパニックを起こす子を見てきた。

教育委員会の考え方

- ・統合によって二つの学校が一つになること、また、これまで通い慣れた学校の場所が変わることについて、子どもたちの心理的な負担に配慮していくことは重要であると考えています。
- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」でも、子どもの中には「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができるのか」などの心配があったという子どももいましたので、こうした気持ちにも寄り添いながら、新たな人間関係がスムーズに構築でき、新しい学校に慣れ親しむことができるようにしていくことが大切だと考えています。
- ・統合に向けては、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るとともに、学校の中で子どもたちに一番身近な教職員同士での情報交換を進めるなど、子どもたちの実情を踏まえつつ対応していきたいと考えています。

(4) 通学距離・安全対策

- ・通学距離が長くなることが心配。統合は仕方ないが、一般的な通学距離に比べて長いのか短いのか知りたい。
- ・しまだ小へ行くには坂もあり、低学年には負担である。また、分団に遅刻した子にはどう対応するのか。
- ・通学時間の点が一番心配。学区の分け方について見直す必要があるのではないかと。
- ・しまだ小と統合すれば、久方3丁目からは小学1年生の足で1時間近くかかる。
- ・学校選択制を検討できないか。山根小学校や相生小は通学に1時間くらいかかるところもあるので、高坂小を選択できるようにしてはどうか。また、高島2丁目は平針南小学校を選択できるようにしてはどうか。
- ・私は高坂小5年生だが、夏の塾帰りにしまだ小の近くから高坂まで歩いた。非常に暑く大変な思いをした。知らないおばさんが、「これでお茶でも買ったら」とお金をくれた。これだけの距離を毎日歩いて通うのはどうかと思う。熱中症が心配。
- ・通学安全や不審者対策はどう考えているか。
- ・交通安全が心配である（特に大根の交差点）。
- ・帰り道が一人だと不安である。信号がないところで車は止まってくれないし、安全な道だと遠回りになってしまう。
- ・種々意見があると思うが、通学する子どもたちのことを第一に考えてほしい。
- ・保護者と話し合うと言っていたが、在校生の意見も取り入れた方がいいと思う。
- ・スクールバスを検討してはどうか。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、小学校の通学距離は概ね2kmを目安としています。なごや小では、統合後の通学距離は最大で1.6km、子どもの足で40分かかるようになったと聞いています。
- ・なごや小のアンケートでは、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもの中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・通学距離については、市内のほとんどの小学校において、教育委員会が目安としている概ね2kmの範囲内に収まっています。なお、通学距離の目安を超える場合は、子どもたちの安全面や負担面の取り組みが可能であれば、柔軟な対応を検討したいと考えています。
- ・熱中症対策は、学校に帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参などについて学校とともに検討したいと考えています。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携しながら、また保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに子どものことを第一に考えた安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施を行いました。

4 取り組みの進め方等に関すること

(1) 取り組みの進め方

- ・国の方針もあり、一定程度の学級規模が必要だということは理解できた。但し、小規模でもメリット、デメリットがあるため、説明資料を含め「統合ありき」に見えてしまうことが、住民感情としてはあると感じた。
- ・今後どのように統合していくのか流れを知りたい。
- ・今後の進め方として、保護者対象の説明会の開催やアンケートを取る考えはあるか。また、高坂・しまだ合同の説明会はあるか。
- ・ステップ1ということは案の段階。これから決めるという前提のはずなのにステップ3、4に進むと聞こえる。これから決めるのか、ステップ3、4へ進む前提なのかはっきりしてほしい。
- ・統合後のビジョンが具体的にってからでないと賛成、反対が決められない。今日の説明会で出た意見をふまえた内容で、決定前に説明会、話し合いの場を設けていただきたい。できたら少なくとも保護者、児童には賛否を聞いて、統合決定の材料にしてほしい。
- ・統合のメリット、デメリットが見えてこない。
- ・賛成でも反対でもないが、本日の資料は数字ばかりで子どもや親への負担が書かれていないと思った。

- ・地元の間人だけでは検討するにも視野が狭いと思う。より専門的見地から議論すべく、早期に審議会に諮問できるよう進めてほしい。
- ・個人的には必ずしも反対ではないが、理解のできる中身ではなかった。財政など具体的に色々ディスカッションをしたかった。
- ・少子化により学校の改築等にかかる費用が問題となっていることについても話があるとよかった。
- ・統合による財政的な削減効果を次の子どもたちに回すといった説明をしてはどうか。統合でお金はいくら浮くのか。
- ・相手校のしまだ小の意見も聞きたい。

教育委員会の考え方

- ・今般の説明・意見交換会は、統合に向けた取り組みの最初の段階（ステップ1）に位置するものです。現時点で統合に向けた具体的なスケジュールが決まっているわけではありませんが、保護者・地域の皆様へ統合について教育委員会の考え方を広くお知らせするため、開催いたしました。
- ・また、教育委員会では、統合を進めていく際には、中立性や客観性の中で専門的立場からの見識や判断が必要と考えています。今後、学識経験者等により構成する名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会で具体的な取り組み内容の調査・審議を行う予定です（ステップ2）。
- ・保護者・地域の皆様には、審議会の答申を踏まえ、統合スケジュールを含む具体的な取り組み内容を改めてお示しし、丁寧な協議（ステップ3）を行った上で統合の決定をしたいと考えています（ステップ4）。
- ・統合について子どもたちがどのようにとらえているのかの参考としていただけるよう、説明・意見交換会ではなごや小の「学校統合に関するアンケート」の実施結果を配布いたしました。
- ・学校施設は、児童・生徒数が急増した1960年代後半から1980年代前半に集中して建築されており、2017年度には約半数が、これまで改築の目安としていた築40年以上を経過しており、老朽化が進んでいるとともに、新たな社会的ニーズへの対応も求められています。
- ・統合を契機に必要な施設整備を行うことにより、施設面での教育環境の充実にも取り組みます。
- ・しまだ小で開催した説明・意見交換会の内容についても、後日、名古屋市公式ウェブサイトで公開する予定です。

（2）保護者・住民への周知方法

- ・統合に反対な訳ではないですが、事前に就学者又は未就学者の保護者への連絡はきちんとしていたいただきたい。この説明会も人から聞いている。回覧板でお知らせしたと聞いたが私の住んでいる所は学区が複雑でお知らせが回らない。是非個別にお願いしたい。
- ・この会の案内はなかなか全ての人に行き届いてないと思うので、意見・質問の回答の「おたより」はしっかりと全ての人に届くようにしてほしい。
- ・ホームページでのお知らせでは知らない人が多すぎる。

- ・自治会に入っていないとチラシが来ない。今日の話はきちんと返してほしい。
- ・参加者は今日から統合の検討が始まると思って来ていると思うが、統合が決まっているかのように説明している。

教育委員会の考え方

- ・今般の説明・意見交換会のご案内は、小学校を通じ保護者の皆様に配布させていただいたほか、近隣の幼稚園・保育園に対し、高坂学区にお住いの保護者の方に配布していただくよう依頼しました。また学区での地域回覧をお願いするとともに、名古屋市公式ウェブサイトにて情報を掲載しました。
- ・今後も、名古屋市公式ウェブサイトでの随時の情報更新など、できるだけ多くの皆様に情報提供できるよう努めます。

5 地域に関すること

- ・学校は街のシンボルである。
- ・小学校がなくなるのは、地域を置き去りにしていると感じるがどうか。
- ・小学校がなくなると、街の魅力がなくなってしまう。
- ・統合は基本的に学校がなくなる。再考してほしい。
- ・高坂町の過疎化が進み、地域が衰退してしまうのか。
- ・小学校がなくなると、なおさら子どもが減ることにならないか。
- ・統合が決まったら引っ越してしまう人もいないか。
- ・統合より子どもたちが集まる仕組みづくりが先ではないか。

教育委員会の考え方

- ・学校は教育の場であるだけでなく、防災や地域交流の場である等など、地域コミュニティの核となっている点に配慮しながら、子どものことを第一に考え、望ましい学校規模の確保に向けた取り組みを進めることが重要と考えています。
- ・今般の説明・意見交換会で提示した統合（案）のように高坂小としまだ小の統合が決定することになれば、二つの学区（地域）の子どもたちが通う新しい小学校が現在のしまだ小の場所に開校することになります。統合は、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するという考え方ではなく、新しい学校を開校するという考え方で、それぞれの学校の特色やよさを継承・発展させることが重要と考えています。
- ・高坂小、しまだ小にはそれぞれ長い歴史や伝統があります。これまでの統合校には、記念となる物品や写真を納めた「メモリアルコーナー」を設置し、各校の歴史や伝統を統合後の学校で大切に受け継いでいます。

6 跡地に関すること

- ・跡地はどうなるのか。
- ・跡地の活用事例について具体的に知りたい。これまでに統合した学校・学区名を知りたい。
- ・防災の機能が残るという点については安心した。
- ・高坂荘の住民としては、高坂小に避難所があると安心できる。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。
- ・これまでの学校跡地は、西区の旧江西小（インターナショナルスクール）、旧那古野小（会議室、シェアオフィス、イベントスペース等）、中村区の旧新明小学校（コミュニティセンター）、旧六反小学校（私立中学校）、旧本陣小学校（中村区役所等複合庁舎（予定））、旧亀島小学校（民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等）となっています。
- ・統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

7 その他

(1) 当日資料

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」中「保護者のアンケート結果」の「4 新校舎に移動する前と後で、学校生活や友達関係などにおいて、お子様に何か変化はみられましたか」の結果として、「変化がみられた」と回答した者が 116 人となっているが、どのような変化が見られたのかわからない。せめてプラスの変化なのか、マイナスの変化なのかを把握すべきではないか。
- ・なごや小のアンケートではよいことばかり書いてあるので、具体的に困ったことなど良くないことも知りたかった。

教育委員会の考え方

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」において、「新校舎に移動する前と後で、子どもに変化が見られた」と回答した保護者の具体的な回答例は、次のとおりです。

「いじめや無視されていたことがなくなった。クラスが今まで一つしかなかったので、逃げ場がなかった。今まで狭い世界の中で頑張っていたんだと痛感した。自分に合うお友達ができて楽しそうにしている。」

「全校では少人数 1 クラスでトラブルが多いクラスだったため、逃げ場もなく閉塞感があったが、複数クラスになり人数も増えたことで性格による住み分けもでき、落ち着いて生活できるようになった。荒れているクラスの子には統合は救いであった。」

「広い範囲のお友達ができ、よい刺激を受けるようになった。」

「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった。」

「トイレを我慢することがなくなった。」

「新しいお友達にはまだまだ気を遣う気苦労のようなものを感じる。」

「新しい人間関係にストレスを感じて居心地が悪そうだった。」

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」で児童が困ったこととして、「学級で意見がまとまりにくくなった」、「先生の名前を覚えるのが大変になった」、「手を挙げてもあたりにくくなった」などの回答がありました。

(2) 学童保育等

- ・学童保育はどうか。
- ・バス停の名前を変更するのに時間もかかるし、そのための費用負担も考えているか。

教育委員会の考え方

- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。